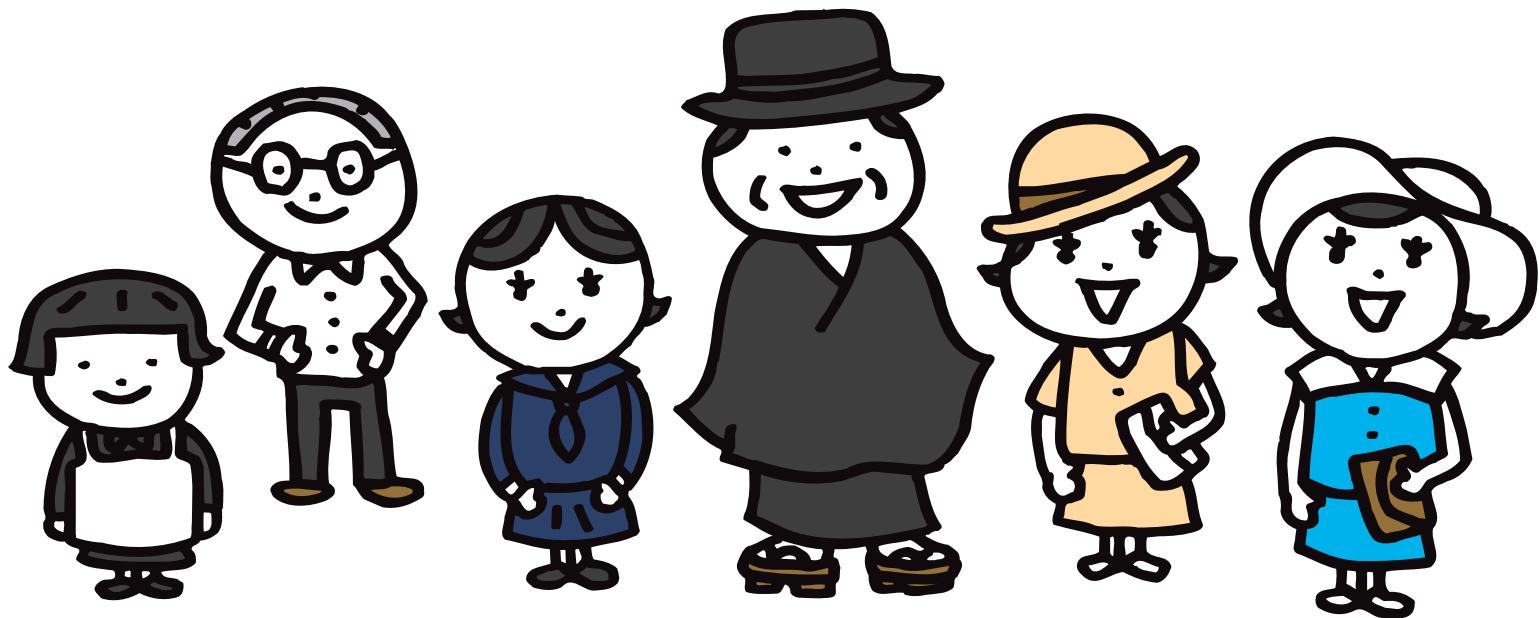


〈近代～現代〉

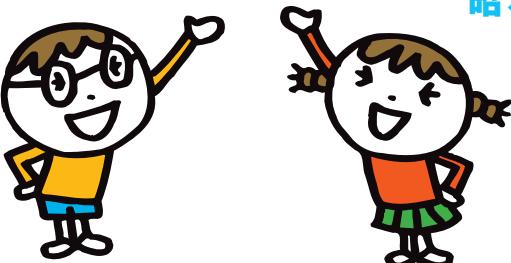
住吉に鉄道が走り、 大住宅地となつた

明治時代以降、廢仏毀釈により住吉大社の神宮寺や津守寺など寺院が失われ、高野鉄道、阪堺線・上町線の開通により、街道沿いのにぎわいも消えていきました。一方、鉄道駅を軸とした住宅地の開発が進み、「大阪阪」として拡大していく大坂市のベッドタウンが広がっていきます。

その後、阿倍野区・東住吉区・平野区などに分区しましたが、古くからの信仰と街道を軸とした街並みを残しつつ、新たに開通した鉄道沿いに新しく開発されていったモダンな住宅地のまち並みという、新旧の生活・文化が混じり合った独自の景観が生まれたのです。



住吉区ゆかりのキャラクター 12
昭和の新住民



※廢仏毀釈 = 明治時代の仏教排撃運動。
慶応4年(1868)に神仏分離令が出されたのを
きっかけに、各地で寺院・仏像の破壊や、出家
した僧侶を強制的に世間に戻すことが行われた

住吉区を走る鉄道



なんかいほんせん めいじ ねん なんば やまと がわかん はし
南海本線は1885(明治18)年に難波一大和川間を走った
(住吉大社駅で)



なんかいこう やせん めいじ ねん すみよしく の
南海高野線は1900(明治33)年に住吉区に乗り入れる
(帝塚山駅で)



なんかいでん き うえまちせん めいじ ねん すみよしく の
阪堺電軌上町線は1900(明治33)年、住吉区に伸びた
(帝塚山三丁目駅で)



きしゅうかいどう はし はんかいでん き はんかいせん めいじ ねん かいぎょう
紀州街道を走る阪堺電軌阪堺線は1911(明治44)年に開業した
(住吉鳥居前駅で)



はんわせん しょうわ ねん せんせんふくせんでんか いすみ ふちゅう かいぎょう
阪和線は1929(昭和4)年に全線複線電化で和泉府中まで開業
(杉本町駅で)



おおさか しょうわ ねん
大阪メトロ御堂筋線があびこまで伸びたのは1960(昭和35)年
(長居駅で)